

第三十四号（昭和七年八月一日）

★……権藤成卿氏の『自治民範』が再版された。国学者の懐抱する思想としては実に珍らしい自由思想だ。別項広告文にもある通り、無政府主義と一脈相通する農本自治主義を以て日本立国の精神とするものである。此人が世間の噂の如く若しフアツシストと提携するやうなことがあれば、それは全然自殺と同様な行動である。

★……今月は中西（悟堂）、英（美子）、中野（時雄）、米沢（順子）等の諸氏から立派な著作の寄贈を受けて感銘を深くした。いづれ改めて読後感を書きたいと思つてゐる。

第三十五号（昭和七年九月一日）

★……この夏は東北から北海道に行くつもりでゐたが、頭部の腫物が執拗になほらないので遂に思ひとまつた。幸ひに共学社は毎日緑陰の涼風に満されて家居の間は暑さしらずに過ぎた。

★……併し好天気続きなので裏の畑で働くことがとても気持よく毎日雑草と戦争だ。頭脳の疲れと腫物の苦痛とを忘れるためにも、畑仕事は好い方便だ。盛夏が過ぎて少し涼しくなつたら地方同志の好意に甘えて函館方面に行きたいと思つてゐる。

★……ハブ草は私のたけよりも高く伸びて濃緑葉上に黄金華をちりばめてゐる。何といふ壮んな光景だらう。一ばいの葡萄の房はやゝ黄ばみかけた艶々しい姿を太陽に照されて、敵といふ敵に生命の輝きを漲らしてゐる。桃は春の花の約束を裏切つて殆んど無収穫、梨は昨年比して五分の一の収穫、柿はやゝ上景気、馬鈴薯は未曾の大豊作、北海道の誌友から寄贈された良種のお蔭もあらうが、鶏糞の肥料がよく利いたらしい。無花果は大へんな勢で実を育てゝゐる。

第三十六号（昭和七年十月一日）

★……本号はマラテスタ記念号になつた。これはマラテスタの意には背くことだ。四五年前にフランスの『ル・スマール』紙がマラテスタ号を出したとき、それを聞いた彼は友人に書を送つて其挙をやめさせてくれと頼んだ。そして「そのやうなことは、深く私の感情に反することであり、アナキズムの非個人的精神に背くことであり、それは悲しむべき習慣による行動ですらある」と言つてゐる。

★……だが吾々から見れば、この素樸な而も果敢にして献身的な生活を終つた大先達の思想や言行や吾々にとつてよき指針である。之を研究、味得することは決してアナキズムの精神に反しないばかりでなく、善き模範となすべき資料を供することである。たと何分にも紙面が狭小で委曲を伝へ得ないことを残念に思ふ。近い内にやゝ詳しい伝記を書いて単行本にする積りだから其時は御購読を乞ふ。